

令和7年ももう3ヶ月が過ぎました。現在、このご報告をしているのは4月も半ばを過ぎたところであり、その間に時代は、いわゆるトランプ関税で大揺れに揺れております。この件についてこの場で詳しく述べることは避けませんが、今後の数ヶ月が世界の政治と経済にとって大きな分水嶺になる可能性は高いと思います。我々日本人は、世界の情勢を曇なき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかりと働いていきたいと思っております。

以下、3月の出来事と総領事(館)の主な活動報告をいたします。

政治・行政面では、チョウ首席大臣への表敬(10日)とDAP中央委員会選挙(15日)が最も大きな出来事でした。首席大臣とは先月の日本訪問について意見交換し、また、今後、当地日本人コミュニティとの関係強化を求める同首席大臣のお話を伺うことができました。連邦政府及びペナン州政府等で与党となっているDAPの中央委員会選挙は大きな注目を集めました。党内の権力基盤がどのように動くかについては注目が集まっています。

この他、関税局ペナン支局への表敬(5日)、入国管理局ペナン事務所への表敬(7日)、ペナン・ポート CEO への表敬(11日)、ペナン空港事務所訪問(13日)、バト・マウン中間ゴミ処理施設視察(19日)などを行ないました。今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

当地日本人社会との関係では、ペナン日本人墓地春の墓参(6日)、ペナン日本人補習校卒業式(8日)、さくらカップテニス大会(9日)、ペナン日本人学卒業式(13日)などがありました。当地で精一杯に生きた先輩の皆様に思いを馳せ、次代の日本を担うお子さま達の健やかな成長を祈るばかりです。

広報文化・学術交流関係では、特に、豊橋技術科学大学(TUT)関係者来訪(19日)と「日本語パートナーズ」との懇談(25日)が特に今後の広がりの中で大きな動きでした。夏にはTUT及び高専の学生さんによる当地訪問や豊橋市青少年の訪問などが目白押しであり、青年交流の実を挙げることができそうです。また、今後10年間で20名がマレーシアに派遣されることになった「日本語パートナーズ」の皆さんは、在ペナン総領事館管轄地域にも7名配置されました。今後、日本関係行事の際などにも活躍が期待されます。

この他、ペナン日本語教師会訪問(12日)、ペナン合気道協会訪問(12日)、ペナン・ヘリテージ・トラスト訪問(24日)、無心館合気道道場訪問(29日)などを行ないました。今後とも、日本文化紹介のために心を尽くす所存です。

ペナン外への出張などは、クランタン・コタバル市出張(17日。ローム・エレクトロニクス社訪問等)、イポー出張(21日・22日：ペラ州開発公社総裁表敬、ペラ日本人補習校卒業式・入学式)、

マレーシア国際商工会議所(MICCI)ペナン・北部支部への表敬(25日)、コベルコ社訪問(26日)、CCPSS(当地犯罪防止NGO)関係者来訪(28日)などがありました。私共の見聞を広げていただく皆様に感謝いたします。

特に、3月26日及び27日には、ペラ州イポーにおいて、ダト牛尼様の葬儀に参列してまいりました。ダト牛尼様は、50年の長い期間、ペラ州において地域経済に貢献され、また、日本・マレーシアの友好関係の増進に比類のない貢献をされてきました。改めて、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今後とも、日本とマレーシア(北部6州)との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。